第６回江別市行政審議会 第１部会　会議録（要点筆記）

日　　時：平成２５年７月２３日（火）　１８：００～２０：００
場　　所：江別市民会館　２１号室
出席委員：押谷委員、佐藤委員、阿部委員、白鳥委員、岸本委員（計５名）
事 務 局：鈴木企画政策部長、米倉企画政策部次長、千葉課長（政策調整課）、西田参事（総合計画担当）、村田主査（総合計画担当）、長谷川主任（総合計画担当）

■開会

■市民説明会開催結果について

（事務局報告）

○ 押谷部会長

市民説明会が市内４か所で開催され、計４７名の参加があったということです。質疑・応答では貴重なご意見をいただいておりますので、資料をお読み取りいただき、市民の方のご意見も取り入れながら審議していきたいと思います。

■議事

（１）えべつ未来づくりビジョン＜第６次江別市総合計画＞別冊 えべつ未来戦略について

○ 押谷部会長

前回の部会では、戦略プロジェクト１Ａの①「協働によるまちづくり」の中に、高齢者が地域課題の解決に関わっていくことを表現してはどうかという議論になりましたが、具体的にどのように表現すべきか、ご意見ありますでしょうか。

○ 白鳥委員

１Ａの推進プログラム①、②、③の「主な内容・特徴」欄で共通するキーワードは「多様な主体」です。そして「多様な主体」の説明は、１Ａの内容の文章の初めに記載されており、「市民、自治会、市民活動団体、企業、大学、行政など」となっています。これは社会的な集まりを示しているものだと思いますが、ここで高齢者や多様な世代という要素も含まれていると定義してしまえば、これ以降で「多様な主体」という表現が出てきたときに、当然高齢者も含むと読み取れると思います。

○ 押谷部会長

これまでの部会での議論では、高齢者のことだけではなく、世代間の繋がり、世代間の協働という概念についても議論がありました。白鳥委員のご意見を踏まえますと、１Ａの内容の説明の文章で、横の繋がりである多様な主体の協働のことだけでなく、縦の

繋がりである世代間の協働のことも含めて、「多様な主体」という表現を使用してはどうかというご意見です。

○ 阿部委員

そうすると、「高齢者」という言葉は出てこないということでしょうか。

○ 白鳥委員

「市民、自治会、市民活動団体、企業、大学、行政など多様な主体」となっている部分に、「高齢者」など世代間の繋がりを表現する具体的な言葉を追加すれば、「多様な主体」の中にどのようなものが含まれているか明確になると思います。ただ、本来は組織や団体等の横の繋がりと、縦の世代間の繋がりというのは性質の異なるものですので、一緒にまとめてしまうことに少し迷いはあります。

○ 押谷部会長

では、すでに記載されている横の繋がりとは別の文脈として、縦の世代間の繋がりのことを一言追加すると良いのではないでしょうか。「高齢者」と対になる言葉は何でしょうか。それが表現できると「高齢者と、高齢者と対になるものの協働」というような記載を追加できるのではないかと思います。

○ 白鳥委員

堅い言葉だと、「労働力人口」とか「生産年齢人口」だと思いますが、そのような言葉はここではあまり相応しくありません。

○ 阿部委員

６５歳で高齢者というのは、少し抵抗があります。７５歳くらいからが高齢者で、６５歳から７５歳までの間の、現役を退いた経験や知識の豊かな人たちに活躍してもらいたいと思っています。そういった人たちのことは「高齢者」とは言えないと思いますので、そういう意味で「高齢者」ではなく、別な言葉が使えないでしょうか。

○ 押谷部会長

「若年層」といっても一体何歳くらいのことかという議論はありますが、たとえば「若年層と経験豊かな層の協働」というような表現ではどうでしょうか。６５歳は「高齢者」という括りになっていますが、まだまだ若くて元気な方がほとんどです。一方で、その人たちの経験を活かしきれていないところが問題だと思います。

○ 阿部委員

これからは、その６５歳付近の人たちに一番活躍してもらわなければならない時代になります。

○ 押谷部会長

そういう人たちが、地域の課題に積極的に取り組んでいけるような仕組みをつくらなければならないと思います。

○ 佐藤委員

１ページの中断に「高齢者世代が持つ知識・経験の活用」という表現があります。

○ 押谷部会長

ここはまさに白鳥委員や阿部委員がおっしゃっていることを謳った部分です。

○ 白鳥委員

３ページの「多様な主体や様々な世代が」という表現が良いかもしれません。縦の世代間の繋がりのことは「様々な世代」とやさしい表現をしていますので、この表現を使ってはどうでしょうか。

○ 押谷部会長

５ページの１Ａの内容の１行目「市民、自治会、市民活動団体、企業、大学、行政など多様な主体」が横の繋がりのことで、その後に「や様々な世代」を追加することで、縦の世代間の繋がりも含めた文脈にできるというご意見です。

○ 白鳥委員

「様々な世代が協働する」という表現が相応しいかどうかですが、肯定できないこともないと思います。

○ 押谷部会長

阿部委員がおっしゃっているように、「それぞれの豊かな経験を活かし」というような表現を入れた方が良いでしょうか。そうすると、生涯学習だけに目を向けるのではなくて、自分たちのこれまでの経験や知識を地域づくりに活かしてもらうということに繋がります。では、１Ａの１行目の文章を「多様な主体や様々な世代がそれぞれの経験を活かし、協働するための」と変更してはどうでしょうか。事務局の方で全体的な文章の流れを確認した上で修正をお願いします。

○ 白鳥委員

推進プログラム①から③の「主な内容・特徴」欄にも「多様な主体」という言葉がでてきますので、すべて同様に「多様な主体や様々な世代」と修正した方が良いのではないでしょうか。

○ 押谷部会長

ではそれらについても同様に修正することにします。

４ページの成果指標に関して、前回の部会で設定が難しいのではないかというご意見がありました。市民説明会では目標を明確にしてはどうかというご意見があったようですが、何かご意見ありますでしょうか。

○ 白鳥委員

「協働によるまちづくりが進んでいると思う市民割合」について、市民アンケートを行っても、おそらく市民はよくわからないのではないでしょうか。「市民、自治会、市民活動団体、企業、大学、行政のいずれか 2 分野以上の連携事業数」も、把握が難しいのではないでしょうか。行政が関係している事業であれば把握できると思いますが、市民同士が協働しているケースは把握が困難かもしれません。「事業数」などの具体的な数値は、目標値としては良いのですが、正確に把握するのは難しいと思います。

○ 押谷部会長

そういったことも踏まえて、一つ目の指標は市民アンケートによる定性的な指標で捉

えられないかということなのだと思います。事務局では、指標についてどのような考え方で設定するのでしょうか。

○ 事務局

素案で示している指標は確定しているものではなく、現時点での案となっています。指標については、本来は具体的な数字で表せる定量的な指標が望ましいのですが、行政の取組の成果は数字で表すのが難しい分野が多く、特に協働といった分野に関してはアンケートによる定性的な指標に頼らざるを得ないものが多々あります。えべつ未来戦略の進行管理にあたっては、成果指標の設定は重要と考えていますので、審議していただく中で、指標設定あたっての留意点などのご意見もいただければ、今後事務局で指標を設定する際の参考とさせていただきます。

○ 佐藤委員

３ページの戦略の方向性の中で、協働が不可欠だがあまり進んでいないということが記載されていますので、そのことについての現状のデータが必要だと思います。現在の協働が進んでいない状況の基本となるデータを把握しておかないと、後日ある程度協働が進んだ状況のデータと比較ができないことになります。

○ 押谷部会長

市民アンケートで佐藤委員がおっしゃったようなデータをこれまでに取得したことはありますか。

○ 事務局

現在の第５次江別市総合計画の進行管理のためにも市民アンケートを実施しており、その中で「自治会・ＮＰＯ・ボランティア等の活動によって、お互いに支え合っていると感じる市民割合」や「ＮＰＯやボランティアをはじめとした、市民活動団体の活動に参加している市民割合」などを取得しています。これらの市民アンケート結果や協働事業数、江別市自治基本条例の認知度に関するアンケートなどを総合的に勘案することで、現状がどのような状況かを把握するためのデータにはなると思いますが、えべつ未来戦略を進行管理していく成果指標については、まだ検討が必要です。

○ 白鳥委員

今回、協働のまちづくりをえべつ未来戦略の一番最初に掲げたのは、行政だけではこれからのまちづくりは成り立たないので、市民みんなで協力して取り組まなければならないということですから、そのことをいかに市民に理解していただくか、というところから始めなければならないと思います。そこで、「協働によるまちづくりが進んでいると思う市民割合」ではなくて、協働の理解度が向上しているかどうかを市民アンケートで取得すると良いのではないでしょうか。協働の理解度が向上していくということは、協働の必要性の理解につながっていくことですから、そこからまず始めなければならないと思います。この協働の戦略の大前提となる協働の概念が、市民に浸透しているかどうかで、この戦略の進捗状況が測れると考えますので、協働の理解度を市民アンケートで取得することで進捗状況を示すことができると思います。協働を理解している市民が

増えることで、協働の戦略としての一歩は踏み出していると言えると思います。

○ 佐藤委員

用語の解説を入れると思いますが、そのときにえべつ未来戦略で使っている「協働のまちづくり」という言葉についても、当然説明をしなければならないと思います。計画の中に出てくる言葉をしっかりと精査しておかないと、また「協働」とは何かという話になってしまいます。江別市自治基本条例があり、その延長線上にこの協働の戦略があるわけですので、それをきちんと明確にわかりやすく市民に説明できる用語を使ってください。その用語が達成度を測るアンケート指標に使われることになるのだと思います。言葉の意味がわからなければ、指標を設定しても何を測っているのかわからなくなってしまいます。

○ 押谷部会長

３ページの戦略の方向性の文章の説明をもっと密にすべきというお考えでしょうか。

○ 佐藤委員

構成として、最初に用語の解説がくるべきだと思います。用語の定義がきちんとされていれば、自ずと戦略の中身も理解していただけると思います。

○ 押谷部会長

用語の説明をもう少しきちんと記述した上で、その用語についての理解度がどうなのかを達成度として捉えていくということになるかと思います。

○ 事務局

江別市自治基本条例に基づく、市民参加条例の制定が課題となっています。議会の一般質問では、市民参加条例制定のための準備を進めるというところまで一歩踏み込んだ答弁がありました。当然、市民参加と市民協働はセットになっていなければならないことですので、市民参加条例を制定して、それとは別に市民協働条例を制定するというように屋上屋を架すことはせず、一本化した形で制定するという流れで、これから準備を進めていくことになると考えられます。制定するといっても、今から作業を始めてすぐに来年の春から施行するということはできませんので、そういう面では、このえべつ未来戦略と関連付ける中で、具体的にどうやって制定作業を進めていくのかが課題となります。また、市民協働は生活環境部が所管で、市民参加は企画政策部が所管しており、条例制定はその両方に関係していますので、縦割りではなくどうやって連携して進めていくかというところが重要になってくると考えています。協働という概念は、市民にとってわかりにくい部分があり、行政にやらされることだという印象を持っている方もいらっしゃいますので、協働という概念をきちんと市民の方に理解していただくところから始めて、協働を進めていくことが必要だと考えており、その結果として条例制定があるのだというイメージを持ちながら、これから作業を進めていきたいと考えています。

○ 押谷部会長

今ご説明いただいたように、協働がまだまだ進んでいないわけですから、白鳥委員がおっしゃったように、協働に対する理解が深まっていない状況をデータとして把握して

おかなければ、進捗状況の評価ができなくなってしまいます。成果指標については、なかなか終わりのない議論になってしまいますので、指標を設定するということについては異論がないという結論とさせていただき、あとは全体会議の中でご議論いただくことにしたいと思います。

１Ｂ①「大学の得意分野を活かした地域の活性化の支援」の「主な内容・特徴」欄に「交流するための活動を支援することで」とあり、行政目線が強い表現になっているというご意見がありました。この「支援する」というのは、行政が支援するという分脈ということでよろしいでしょうか。

○ 事務局

江別市としてできることは何かと考えたところ、「支援することで」という表現になっています。

○ 阿部委員

自治会では、お互いに連携を取りながら協力していくというような表現を使っています。

○ 白鳥委員

「交流するための活動を支援することで、地域の課題解決をめざします」となっていますが、地域の課題解決をするために、交流するための活動などが支援の対象になるということだと思います。支援が目的ではありませんので、「大学と地域が互いを知る交流などを支援し、地域の課題解決をめざします」という表現であれば少し良くなると思います。交流から何が産み出されるのかということが記載されていると、一番良いと思います。

○ 押谷部会長

「支援」というと、やはり上から目線というか、主体がどこかにあってそれを支援するという形になってしまいますし、「支える」というイメージにもなってしまいますので、「促進する」というような表現の方が良いのではないでしょうか。

○ 白鳥委員

良い言葉だと思います。「交流するための活動を促進し」というような表現になるでしょうか。

○ 事務局

この計画素案になる前の計画骨子の段階では、もう一つ「大学及び地域の行事への相互参加の促進」という柱があり、大学の得意分野を活かした地域の活性化の中で、大学と地域の相互交流に取り組むという内容でしたが、１Ｂ①と内容が重複していることから、素案になる段階で①に統合したという経緯がありますので、今ご意見のあった交流の促進という要素がここに入っているという形になっています。

○ 押谷部会長

では「支援」という言葉を削除して、「大学の研究機能を活用するとともに、大学と地域の交流を促進し、地域の課題解決をめざします」とシンプルな表現にして、もう少

し具体的に表現すべきということであれば、今事務局から説明のあった内容を踏まえて言葉を追加するということにしてはいかがでしょうか。それと、①のプログラム名称からも「支援」を削除して「大学の得意分野を活かした地域の活性化」としてはどうでしょうか。

○ 阿部委員

具体的な表現を入れて文章を長くしなくても良いと思います。

○ 岸本委員

内容が異なりますので、比較すべきかどうかわかりませんし、産業の戦略なので当然なのかもしれませんが、戦略プロジェクト２Ａや２Ｂでは「支援します」という表現がたくさんあります。行政が支援するというのは上から目線だというのはわかりますが、これは市の総合計画ですから、当然主体となるのは市だと思います。先ほど議論のあった、協働とはやらされることだというイメージがあるということにも関係しますが、最近の市のスタンスは、まず市民が何をしたいのかを聞いて、それをサポートするという姿勢であり、控えめで行儀が良いのですが、それが逆に市民からすると自分たちだけにやらせるのか、と受け取られてしまっている部分もあると思います。市は何をしてくれるのかという言い方をする人もいますので、市民の目指すまちづくりをサポートするという市の姿勢が伝わっていないという現状があります。それを考えると、「支援する」という言葉を削除してしまうのはあまり良くないのではないでしょうか。一方で、「促進」の方がわかりやすいとも思いました。

○ 白鳥委員

私が考えていたのは、支援というのは行政の支援だけではなく、市民の支援も入るのではないかということです。行政が取り組むということは、税金を使うということであり、市民の公認がなければ税金は使えないわけですから、そういった意味で行政も市民も一体となって支援していくということだと思います。ですから、「支援」という言葉が、江別市が支援するというだけの意味ではないということを理解してもらえるのであれば、「支援」という言葉を使っても良いと思います。

○ 押谷部会長

他の戦略では、岸本委員がおっしゃったように、「支援する」ということが強調されても良いと思いますが、戦略１については「協働」がテーマとなっていますので、行政が支援するということではなくて、様々な主体が相互に関与すべきであるという意味で、「支援」という言葉はできるだけ避けた方が良いと思います。

○ 白鳥委員

押谷部会長がおっしゃるように、市民も行政も一緒になるということが「協働」の大前提ですので、「促進」という言葉で表現するのが相応しいと思います。

○ 佐藤委員

「支援」についても用語の定義のところできちんと説明しておかないと、人によって色々な解釈があります。

○ 押谷部会長

「支援」といっても様々な支援の仕方がありますし、「促進」にしても市が主体となった方法もあれば、市民が主体となった方法もあると思いますので、用語の解説をもっと丁寧にしていただくという前提で、先ほどの案の表現とするということにしたいと思います。

○ 佐藤委員

推進プログラムの②のタイトルにも「支援」とありますが、これについても「支援」は削除した方が良いのではないでしょうか。

○ 押谷部会長

では②のタイトルも同様に「知的資源である大学が持つ力を活かした教育・人材育成」として、「支援」を削除します。協働というテーマですから、主体をあまり強調しない形にしたいと思います。

前回のこの部会での議論で、戦略２についても意見が出ていましたが、それについて第２部会ではどのような議論になりましたか。

○ 事務局

７月１７日（水）の第６回行政審議会第２部会で、第５回行政審議会第１部会で出された戦略２に関するご意見についてご審議いただきました。戦略２Ａと２Ｂがタイトルだけを見るとかなり類似しているというご意見に関しては、２Ａは市内の企業が互いに連携しながら、大学や行政とも連携して経済を活性化させていこうという内容で、２Ｂは農業に焦点を当てて、そこから産業を展開して全体の付加価値を上げていこうという戦略だという確認をした上で、タイトルが概念的なために類似してしまっているが、内容を読めば理解はしていただけいるとのことから、結論としては、内容の表現をもう少し変えることで、区別を明確化しようということになりました。具体的には、９ページの２Ａに出てくる「農商工連携」という言葉を「企業間連携」に変えて、１０ページの２Ｂの説明文章の「江別市の基幹産業の一つである農業と」の部分を、「農業が」として完全に主語にすることで、農業に焦点を当てた戦略であるということを明確にし、２Ａと２Ｂの区別を明確にしてはどうかというご意見にまとまりました。もう一つ、２Ａ④に環境ビジネスという視点を入れてはどうかというご意見については、１１ページの２Ｃ①の「環境保全に対する意識や関心の高い企業への優遇措置」という記載の部分に、環境そのものをビジネスにしている企業に対する支援といった内容を追記してはどうかというご意見がありました。環境ビジネスに関しては、江別市としてどこまで踏み込めるか担当部局に確認の上で、記載するかどうかも含めて事務局で判断することとなりました。いずれのご意見に関しても、答申内容やパブリックコメントの結果を踏まえながら、計画素案を計画案にする段階で検討させていただくということで、第２部会での議論は終了しています。

○ 押谷部会長

戦略２についてこの部会から出された意見に関して、事務局から第２部会での議論の

報告がありましたので、結果についてご了承いただきたいと思います。

戦略４に関して、シティプロモートに際してメインとなる対象を考えるべきというご意見が前回出されましたが、どのように進めていったら良いかなど、何かご意見ありますでしょうか。

○ 白鳥委員

このままでは戦略４は戦略になっていません。江別市として、どこを一番大切に情報発信するのか、第一に情報発信すべき項目は何なのかという戦略を組み立てるのがシティプロモートだと思います。戦略プロジェクトのタイトルが「ニーズにあわせた効果的な情報発信」とあり、確かに行政としては色々なニーズにあわせた情報発信をしなければならないのはわかりますが、たとえばこれからの江別市は農業を打ち出していくから、農業に関してのプロモーションを全国的に展開していくといったような、メリハリのつけ方を考えるのが戦略ではないでしょうか。何をプロモーションしていくか、まだ明確にできないのであれば、今後それを検討していくということでも良いと思いますが、全ての情報を網羅的に発信するのではなくて、知ってもらいたい情報を大々的に発信していくことが戦略的な情報発信だと思います。そのように取り組んでいくということが記載されていれば、総合計画としては十分かもしれませんが、もっと踏み込んで、今回戦略として掲げた項目を最優先としてシティプロモートしていくということを計画の中で謳うことも考えられます。

○ 押谷部会長

江別の地理的優位性や特性といったことはすでに記載されていますが、具体的により強調したい部分を明示した方が良いということでしょうか。

○ 白鳥委員

強調したいところは強調した方が良いということです。各部で連携しながら力を入れて取り組んでいる施策を、全国的に発信していくという意味合いがシティプロモートにはあると思います。

○ 押谷部会長

江別市の一番の売りは何かということになるのでしょうか。

○ 白鳥委員

今一番江別市として進めたい施策ではないでしょうか。それをどう発信していくかをこの戦略で明確に打ち出すことが必要ではないでしょうか。今までも情報発信していないわけではありませんので、もっと的確に、集中的に発信していくということです。何を一番に発信していくのかという優先順位を明らかにすることが必要だと思います。端的に言うと、たとえば今市長が人口減少対策を考えているとすると、人口を減らさないためにはどのような施策を打つべきか、どのような情報を発信しなければならないかということが決まってくると思います。そういった政策的に重要度の高い情報を発信すべきだということです。これからは、このえべつ未来戦略が重要度の高い政策になるのであれば、これをもとに、どこを優先して情報発信するのか検討するということになるの

だと思います。そういうことが、この戦略４の中に記載されているということが重要だと思います。

○ 押谷部会長

いわゆる経営方針をしっかり立てるということかと思います。市が重要な政策だと考えた分野を発信していくべきというご意見です。

○ 岸本委員

江別の魅力を外に発信していくという戦略ですが、江別のアイデンティティーを確立するというか、まずは住んでいる市民が魅力を感じることが第一だと思います。えべつ未来市民会議でも、情報発信が上手くできていないので、江別の良いところをもっと発信して人を呼び込むべきだという意見がたくさん出ていましたが、そのような情報発信をしていくのか、それとも市として重点的に打ち出す政策に合わせた情報発信をしていくのか、難しいところです。戦略１から戦略３までは、「江別市」が他市の名前に変わってもそのまま成り立つような内容ですので、何か一つ江別らしい戦略があった方が良いと思っており、それをこの戦略４で打ち出せないでしょうか。

○ 白鳥委員

私のシティプロモートの定義の他にも、シティプロモートの定義があるかもしれません。市でやっている色々な取組を総花的に、均等に、適切に情報発信をするのがシティプロモートだとすれば、今のままで何ら問題ありません。ただ、今市として一番力をいれているのはこの政策だということを、市民や市外にＰＲしていくのであれば、自ずとその情報発信にかけるウエイトが変わってくるはずです。そのように重点化するということが、これから新しい戦略として必要ではないかということで、このシティプロモートの戦略が掲げられたのだと解釈しています。

○ 押谷部会長

シティプロモートの目的を表現するのか、それとももっとしっかりとした内容のある戦略にするべきなのかということでしょうか。白鳥委員や岸本委員のご意見は、もっと内容のあるものにしておくことが必要だということでしょうか。

○ 白鳥委員

先ほど押谷部会長がおっしゃった、江別市の経営戦略をどう訴えていくかが、このシティプロモートの戦略に書き込まれるべきだと思います。

○ 押谷部会長

そのためには具体的な内容が必要ということでしょうか。

○ 白鳥委員

ただ、この中に具体的な内容を盛り込むとなると、色々なものが出てきてしまいますので、そのような経営戦略に基づいて情報発信していくということが書き込まれることが重要だと思います。

○ 押谷部会長

えべつ未来戦略に記載されている内容を受けて、しっかりとした経営戦略を立てた上

で、江別の魅力を発信していくということを書き込むだけでも、これまでの情報発信とはかなり変わってくるというご意見かと思います。

○ 事務局

今回のえべつ未来戦略は、戦略１から戦略３を具体的にプロモートしていくのが戦略４というイメージで構成しています。戦略４の中に、個別に情報発信する内容を記載してしまうと、それに縛られてしまいますので、どのような情報を戦略的に発信していくのかというと、戦略１から戦略３のそれぞれの項目であるということになります。

○ 佐藤委員

戦略１から戦略３が、そのまま戦略４の推進プログラム①から③に該当しており、それを推進することがシティプロモートだという構成になっていると思います。

○ 押谷部会長

これからの江別市の経営戦略としては、えべつ未来戦略の戦略１から戦略３という大きな柱があって、それをもとに経営戦略を立てて江別を売り込んでいくというシティプロモートの形だということを、しっかりとこの戦略４に書き込んではどうかというご意見かと思います。

○ 佐藤委員

そういう視点で見ると、戦略２から戦略４にはタイトルに「えべつ」と入っているのに、戦略１だけ「えべつ」と入っていませんので、「ともにつくる協働のえべつのまちづくり」として、「えべつ」を平仮名で入れるべきだと思います。

○ 押谷部会長

江別を強調するということで、「えべつ」を入れるということにします。

それと、経営戦略としてはえべつ未来戦略の戦略１から戦略３を想定しているということを戦略４の中で強調していただければ、もう少しこの戦略４が具体的になるかと思いますがいかがでしょうか。これは総合計画で、より具体的な施策はこれから各部局が考えていくことになりますので、それにあまり制約がかからないようにするために、ここでは緩やかにかつ大胆に方針だけを打ち出したいということです。

○ 白鳥委員

イメージとしては、おそらくそれぞれの戦略にぶら下がっている戦略プロジェクトがターゲットになるのだと思います。それらを強調して訴えていくということだと思います。

○ 押谷部会長

部局間の総合調整を行う中でも、江別市としてはこのような形でシティプロモートに取り組んでいくのだから、各部局でもそれに沿った施策展開をしていくという流れになると思います。

○ 佐藤委員

さらに具体的なことについては、「主な内容・特徴」欄で少し強調することもできると思います。

○ 押谷部会長

１７ページの「めざす姿」も少し違った表現になるかもしれません。３つの戦略に基づいてシティプロモートをしていくということを強調することになりますので、ここでは江別の特産品などについてはあまり触れない方が良いと思います。事務局の方で表現を検討していただけますか。

○ 事務局

記載内容については事務局で検討させていただきます。４Ａの推進プログラムを構成する際に、①が戦略３、②が戦略２、③が戦略１と２というイメージで組み立てたという経緯はありますが、表現が足りない部分があるかと思いますので、いただいたご意見を踏まえて検討させていただきます。１７ページの戦略プロジェクト名の「ニーズにあわせた効果的な情報発信」の下に、特記事項として記載し、１９ページにつなげるという形にすればわかりやすいかと思います。

○ 押谷部会長

何を強調してシティプロモートしていく戦略なのかが、少し不明瞭だった部分がありましたが、どのような経営戦略に基づいてシティプロモートしていくのかということを強調すれば、ある程度はっきりすると思いますので、そのような形で調整をお願いします。

（２）えべつ未来づくりビジョン＜第６次江別市総合計画＞ 素案について

○ 押谷部会長

前回の議論では、政策０８「協働」をもう少しクローズアップできないかということと、まちづくり政策の中でも大学との連携に関する記載をもう少し検討できないかというご意見がありました。

１８ページの「１　協働のまちづくりの推進」に「（３）コミュニティ活動への支援と相互連携」と「（４）市民活動団体の支援と相互連携」とあり、「支援」という言葉が使われています。 ここも「支援」を削除しても差し支えないかと思いますが、いかがでしょうか。

○ 佐藤委員

「支援」を「推進」に置き換えてはどうでしょうか。

○ 押谷部会長

（３）は「コミュニティ活動の推進と相互連携」、（４）は「市民活動の推進と相互連携」ということにしたいと思います。

大学連携に関する記載については、「（５）大学との連携によるまちづくりの推進」として記述されているということでよろしいかと思います。

○ 岸本委員

１４ページの「（１）まちづくりの基本理念」の下から２行目に「様々な主体」とあります。えべつ未来戦略では「多様な主体」を「多様な主体や様々な世代」と変えることになりましたので、こちらも同様に変更してはどうでしょうか。８ページの「（６）市民協働」の中にも同様の記載があります。

○ 押谷部会長

文章の流れが違いますので、若干表現が変わるかもしれませんが、８ページ、１４ページの記載にも同様の文言を追加することにします。他にもあるかもしれませんので、確認の上で事務局と調整させていただきます。

○ 白鳥委員

３５ページにも「支援」という言葉がたくさん使われていますが、これらをどうするかは押谷部会長と事務局にお任せしてよろしいでしょうか。ただ、ここは分野別の政策で、市の政策を謳った部分ではあります。

○ 押谷部会長

市の政策ですので「支援」でも良いかもしれませんが、できるだけ言葉の使い方は統一しておきたいと思いますので、事務局と表現を検討しておきます。

○ 岸本委員

平仮名の「えべつ」が気になります。「えべつ未来づくりビジョン」などのタイトルに使われている分には気になりませんが、文章の中で平仮名の「えべつ」が使われている部分、たとえば基本目標「協働でまちづくりに取り組むえべつをめざします」などは違和感があります。

○ 押谷部会長

これは全体に関わる問題で、部会で結論できることではありませんので、全体会議でまたご発言いただき、全体で議論したいと思います。全体会議でも意見が分かれて集約できないようであれば、最終的には事務局の方で決定していただくことになろうかと思います。

他にご意見が無ければ、本日の議論はここまでにしたいと思いますが、次回の全体会議までの間に、本日議論していただいたことも含めて、何かご意見があれば事務局にお寄せいただきたいと思います。それを受けて私の責任において事務局と調整させていただき、調整結果については全体会議の中でご意見をいただくことにさせていただきたいと思います。

（３）次回の審議会について

８月中に開催予定の第７回・第８回行政審議会（全体会議）の日程確認

第７回　８月１２日（月）　１８：３０～
第８回　８月１９日（月）　１８：３０～

（４）その他

パブリックコメントの受付状況及び将来都市像についての意見募集について説明

■閉会